
A

エックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A

【Nコード】

N2543F

【作者名】

エックス

【あらすじ】

彼は冷たい。いつでも。冷たいというより私に興味がないのかも。でも彼が好き。大好き。側にいるだけで幸せ……だと思う。

第1話

彼は冷たい。いつでも。冷たいというより、どうでもいいのかもしれない。私のことが。それでも私は彼が好き。大好き。側にいるだけで幸せ……………だと思う。

彼　裕一郎を初めて見たのは入学式。偶然見かけただけであつたが、たくさんの方がいたのに、なぜだか裕一郎だけキラキラ光つて見えた。その美しい横顔がキラキラキラ……。

それから私はずっと彼を見ていた。いや、彼を見ていたのは私だけではない。女の子は誰もが彼を見ていた。無理もない。スラリと高い身長、白くてスベスベの肌、少し長めの髪、モデルのような顔……………彼は本当にキレイ。私にはいつでもキラキラ光つて見える。

彼に触りたい。声が聞きたい。視界に入りたい。……………私のものにしたい。

もう我慢の限界！少しでも彼の視界に入れるなら……と玉砕覚悟で告白した。

「大好きです！付き合ってください！」
「……………イヤダ……。」

わかっていたが悲しかった。でも告白している少しの間だけ、彼と目が合い、視界に入れるのが嬉しくて、もうそれから毎日のように何度も何度も告白を続けた。付き合えるなんて思ってた。ただ声が聞けて、視界に入れるのが嬉しかった。

「あんたしつこいね。ホント。うざい。」

何十回目かの告白のあと裕一郎が言った。普段寡黙で、周囲に無関心で、クールな彼はがこんなになっちゃべった所を初めて聞いたから驚いた。と、同時に“うざい”と言われたのはやはりショックで少し泣きそうになった。

「俺あんたのこと好きじゃないけど、まあ……いいよ。」

「……へっ? ……………あの……“いい”って……?」

「付き合ってもいいよ。」

突然の意外すぎる言葉に腰を抜かしそうになった。裕一郎は無表情のまま私を見ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2543f/>

A

2010年10月11日02時28分発行